



東稲ニュース

早稲田大学校友会東久留米稲門会

平成25年11月10日発行
発行責任者 安次峰暁
編集責任者 別処尚志
E-mail:satoru_ajimine@hotmail.co.jp
http://homepage2.nifty.com/35292/

来たれ！ 校友 早稲田の「ワ」へ！

東久留米市在住の50代、60代の早稲田大学校友のみなさまへ

市内在住の早稲田大学校友の集まり「東久留米稲門会」へのお誘いのため、会報の「東稲ニュース」最新号をお届けいたします。 **みなさん！ ご近所にお友達はいますか？** 高度成長期からバブル期、そして失われた20年を通して働きづめで、東久留米には寝に帰るだけ、子育てと近所づきあいは奥様任せだった方が多いのでは……。人生も後半戦に入ったのを期に、是非地元で気兼ねなく付き合える友達を作りましょう。肩を組んで「早稲田の栄光」を歌い、高く手を挙げて「都の西北」を合唱すれば、瞬時に打ち解けて、気持ちだけは学生時代に戻り、忘れていた青春の熱い思いが蘇ってきます。新しい仲間大歓迎です。一步を踏み出しましょう。お申し込みは同封のご案内をご参照ください。今人会すれば、会費は次年度からとなります。

東久留米稲門会 設立20周年記念事業について

20周年記念事業実行委員長 渡辺 真司

来年度は東久留米稲門会創立20周年となります。前号にてお知らせ致しましたが、年度初めから記念事業を予定しており、いくつかの部門で事業実行にむけて計画がスタートしています。

◎20周年記念のメインイベント：成美教育文化会館にて、平成26年11月24日（月）の祭日です

記念コンサート リーダー：大矢真弘 ニューオールリズジャズクラブと交渉中

記念パーティー 成美教育文化会館にて

◎記念誌発行 リーダー：別処 尚志

◎記念ウォーキング リーダー：森田 隆

◎文化展覧会 リーダー：橘 優治 会員の方々の力作の作品展

（絵画、俳句、短歌、川柳、書、写真、手芸、絵手紙……是非ともご披露ください）

◎太極拳の集い リーダー：鮎貝 盛和

会の告知板

【部会予定】

- | | |
|---|-------------------|
| 11月10日（日）～11日（月）旅行同好会 「東北応援ツアーⅡ（磐梯吾妻、会津）」 | 07：30 東久留米市役所 |
| 11月15日（金）映画鑑賞会 『花咲ける騎士道』 | 14：00 成美教育文化会館 |
| 11月15日（金）～17日（日）東久留米稲門会書道部展 | 成美教育文化会館 1F ギャラリー |
| 11月23日（土）ラグビー観戦会 早稲田 v s 慶応 | 12：00 秩父宮ラグビー場 |
| 12月 1日（日）ラグビー観戦会 早稲田 v s 明治 | 12：00 国立競技場 |
| 12月 7日（土）稲門ゴルフ会例会（10月からの延期開催） | |
| 12月 8日（日）東久留米稲門会 役員会（終了後忘年会） | 16：00 生涯学習センター |
| 平成26年1月12日（日）～17日（金）国際書画交流会展（書道部会出展） | 東京都美術館 |
| 平成26年1月26日（日）東久留米稲門会新年会 | 17：00 成美教育文化会館 |
| 平成26年4月20日（日）東久留米稲門会平成26年度定期総会 | 成美教育文化会館 |

[大学・校友関係]

- 1 1月10日(日) 東京三多摩支部大会 13:00
1 1月16日(土)～17日(日) ※「校友向け東北復興スタディツアー」 JR 仙台駅集合
1 1月17日(日) 東村山稲門会総会
1 1月24日(日) 清瀬稲門会総会
1 1月29日(日) 東京23区、三多摩支部合同会長懇話会 18:00 西北の風
1 2月21日(土) ※「第3回 早稲田駅伝 in 国立競技場」
(※印のイベントは校友会本部からの要請で記載しています)

[会の報告]

◎役員会報告 平成25年度第3回役員会が10月6日16:00より生涯学習センターで開催されました。
議事録概要

1. 大学・校友会・近隣稲門会・三田会関係催事への出席報告及び参加予定の確認
9月27日代議員会報告の中で、当会平山前会長が賛助代議員に選出されたことが報告された
2. 10月14日の「講演会・秋の旨いもの会」準備/確認
3. 20周年記念事業各チームの進捗状況確認及び予算審議 記念誌の発行形態でCD/DVDも要検討に
4. 平成25年度会員増強活動は、11月に50代60代校友向け勧誘実施 本年度会費徴収せずとする
5. 平成26年度定期総会講演会の講演者、11月末までに小牧氏より候補3名に交渉する
6. ホームページリニューアルについて20周年に向けて検討することに
7. 部会活動費は20周年記念事業で予算を使うため、極力遠慮要請、状況次第で支給
8. 次回役員会 12月8日(日)16:00～生涯学習センター 終了後会長部会長役員忘年会

◎講演会・「秋の旨いもの会」報告

10月14日(月)15:00成美教育文化会館に於いて、当会会員の伊佐九三四郎氏による講演会「荒川を歩く」と「秋の旨いもの会」が開催されました。講演会「荒川を歩く」の内容は氏の資料の一部を記してそれに代えさせていただきます。

「奥秩父甲武信ヶ岳の源流、真ノ沢から東京湾まで173キロ、関東平野を貫いて海に至る荒川。流域は山岳信仰、歴史地理、民族、祭りなど文化遺産の宝庫だが、荒ぶる川の名のように洪水の歴史もある。利根川と荒川の流路をつけかえ、荒川放水路(現荒川)の開削も江戸、東京を洪水から守るためだった。真ノ沢を遡行して最初の一滴をすくい、湾岸まで踏査してみると、この川の素顔が鮮明に浮かびあがってくる。もし想定外の災害が河口に広がる東京を襲ったら、首都の機能は？ 東京ゲートブリッジに立つと、1本の川から様々なことを考えさせられる。」

「旨いもの会」は45名の参加を得て、17時、橋幹事の司会により、安宅元会長の挨拶でスタート。今年の招待者は、笹原綾子さん(平成15年法)。申込者であるお母さんと一緒に参加していただきました。招待状配布の努力は続けるものですね。さて、「旨いもの」は8人の会員ご婦人の方の絶大なるご支援により非常にバラエティに富んだ料理が用意されました。その上、後片付けまでご協力いただき、この場を借りて厚く御礼申し上げます。「旨いもの」を食べかつ飲んで歓談の花が咲き、笹原さんの紹介や橋幹事によるクイズもあって、盛況のうちに高橋元会長の締め挨拶と進み、大島さんのハーモニカと大矢幹事のリードによる校歌斉唱でお開きとなりました。「旨いもの」を創作して下さった方々、銘酒を寄贈して下さいました。皆様ありがとうございました。 別処尚志記



伊佐九三四郎氏による講演

◎「稲門祭」報告

校友会主催の稲門祭が10月20日に開催された。生憎の雨模様であったが、沢山の人が訪れ、校友と思われる人々、また子供連れの人、キャンパスツアーに訪れた中高生などでキャンパスは埋まった。稲門祭実行委員の一人である私の持ち場が大隈候銅像のそばであった為、大隈候銅像前を集合場所としているOGの方々が再会を喜び合っているのが印象に残った。午後15時から、当会からも景品の梅酒を寄贈している稲門祭記念品購入者を対象に抽選会が大隈講堂で行われ、別掲のように6名の方が当選され、景品は後日届けられた。



雨の稲門祭 大隈講堂前

別処尚志記

【部会報告】

<太極拳部会>

9月28日(土) 太極拳部会では、恒例となった周年記念集會として、部会開設12周年懇親パーティを行いました。安次峰会長にも特別ご招待としてご参加いただきました。毎週土曜日午前中と同じ、通常稽古の快い汗をさっと拭い、12時から、角上の特上寿司、とびきり旨い日本酒、絶品のドイツワイン・・・等々、次々にお口に運びながら、この会の歩みを語り合いました。



太極拳部会 午前中の稽古風景



稽古後の12周年記念撮影

代表の鮎貝さんのご挨拶、太極拳の歴史を絡めたクイズ、この会を起こした中心人物の高橋勤さんも酔っぱらってべらんめー……。松崎さんは「とんがり帽子の時計台……」とうなりだし、一般市民参加のレディーも大口開けて歌ったりクイズを出したり、賞品まで作ってくれてありがとう！！少女時代に戻ってちょっぴり胸ドキのゲームもありました。女性はすごい。パワー満点ですね。

メは帆角さんのリードで「都の西北」。会員の奥様方はもとより、一般市民の方も大合唱・・・楽しいひとときでした。

今後の予定：来年3月に東久留米稲門会20周年記念事業としての「太極拳のつどい」を検討中

渡辺真司記

<囲碁部会>

9月25日(日) 日本棋院市ヶ谷において首都圏各地域稲門会及び早大囲碁部現役が参加して第13回稲穂会囲碁大会が行われました。無差別クラス及びAクラス～Fクラスの個人戦で、東京都中学囲碁団体戦で優勝した早稲田実業中等部のメンバーや現役囲碁部からの参加者などとの熱戦が展開されました。

東久留米稲門会囲碁部会及び、合同活動をしている西東京囲碁部会からの出場者の成績は、無差別クラスで苧草九段が四位、Aクラスで西東京の栗林六段が優勝となりました。第14回大会は来年9月に実施する予定です。

毎年11月第4週に実施している囲碁部会恒例の研修合宿は、奥秩父越後屋旅館の予約の都合で、11月30日(土)～12月1日(日)になる予定です。例年通り西東京稲門会もお誘いして、楽しい合宿にしたいと考えています。

苧草正守記

<ウォーキング部会>

9月29日(日) 小手指駅からトトロの森1号地と狭山湖

参加者 15名

猛暑の夏をお休みし、久々に行程約9km、茶畑が記憶に残る狭山丘陵を歩いた。歴史小説で識る新田義貞が、陣を構えた古戦場にある白旗塚に登り、7百年前の「つわものどもが夢の跡」に想いを馳せる。そこから日本武尊が創祀との北野天満宮、武蔵野三十三観音霊場の全徳寺を参詣し、少し急坂な小道を稼いで行く内に、「猫バス」が飛んできそうな鬱蒼とした森に入ると、そこはもうトトロの森1号地であった。映画のシーンを回想しながら少し下った四阿で、迫りくる蚊の群れを払いながら落ち着かない昼食をとる。午後は、坂を下って直ぐ近く、多摩川の水を導水して昭和9年に東京都の水瓶となった狭山湖に至る。秋の気配は未だ薄い晴天の湖畔を散策、久々に浩然の気を養う。行程の終わりは狭山不動尊、山口観音を参詣して、野球応援客で賑わう西武球場前駅を目指した。東海俊孝記



狭山湖で記念撮影

<グルメ部会>

今夏の記録的な連日の猛暑に耐えた後遺症であろうか、グルメ会常連の幾名かが疲れや体調不良で不参加。日頃善行の善男善女の集まりにしては珍しい小雨も預かってか総勢10名のちょっと淋しい第24回グルメ会となった。



本場の中国料理を堪能

10月29日(火)約一年半ぶりにグルメ会を復活。横浜に乗り入れの西武池袋線を利用して横浜中華街に直行した。関帝廟前の「荔香尊(らいしゃんそん) 酒店」が今回の会場、一同10人が大きな円卓を囲んで本場の中国料理を堪能。紹興酒の酔いも醒めた頃合を見て小雨煙る商店街に出、中華街土産を仕入れた後、タクシーに分乗して浜の名園「三溪園」へ。大都会の中とも思えず、喧騒から歴史から置き去りにされたような古色・優麗な庭園は心身を癒すのに充分だった。日暮れの早まりをうらめしく思いながら雨の上がった浜の街を去り、6時近く東久留米に帰った。横浜は近くなったものである。



横浜中華街関帝廟

比護喜一郎記

<俳句部会>

9月29日(日) 第159回句会 於：生涯学習センター 集会学習室2

兼題：「水澄む」、「赤とんぼ」、当季自由題

- | | |
|-----------------------------|------|
| 池の面に触れて弾んで赤とんぼ | 三田畔巢 |
| 初秋刀魚腸 ^{わた} の苦みも旬の味 | 三田畔巢 |
| 秋暑し同じニュースの幾たびも | 神田尚計 |
| 野に荒 ^{すま} む無縁の墓や女郎花 | 川俣栄一 |
| 竹林の湧水澄みて風渉る | 棚野愛子 |
| 白雲を写し碧潭水澄めり | 三田畔巢 |



秋刀魚焼く指白きひと安房の宿
いつの間に匂ひ変りし風九月
赤とんぼスマホ携帯なき時代
水澄みて忍野の里に鯉の群れ
赤とんぼ何伝えたい親し気に
境内に古き駄菓子屋小鳥来る
戸隠の山を映して水澄めり
赤とんぼ翅八の字に寄せ眠り

※2点句以上

藤田貞夫
棚野愛子
橋 優治
藤田貞夫
馬場清彦
河村洋子
川島知子
安宅武一



10月20日(日)は、早稲田大学所沢キャンパスへの吟行の予定でしたが、雨のため中止としました。

橋 優治記

部会だより (50音順)

<映画鑑賞会>

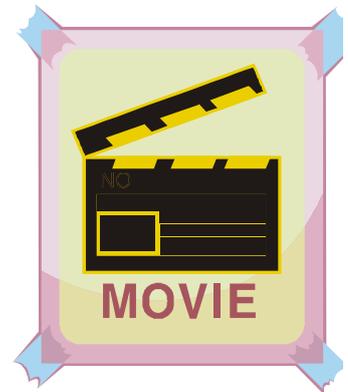
『花咲ける騎士道』11月15日(金)午後2:00~於:成美教育文化会館
前々回「モンパルナスの灯」で初登場した、ジェラルド・フィリップ
の違った味の映画を取りあげてみました。1951年のフランス映画です。

18世紀、徴兵募集官の娘の甘言に乗って兵士となったファンファン
(J・フィリップ)の破天荒な兵士ぶり、恋と思いがけない大手柄を描く
明朗冒険活劇の名作。

短命に終わった(36歳)J・フィリップは、正統派の美男俳優で、この
作品は彼の中期の代表作であり、その演技も嫌みがないモテモテぶり
で、身のこなし、剣さばきは目を見張るものがありました。この主人公
の名ファンファンは、彼の愛称になりました。相手役のジーナ・ロロブ
リジータはイタリア出身で有望株でしたが、この映画で俄然人気を博し、
国際的な女優として活躍しました。

監督のクリスチャン・ジャックはフランスの作家としては異質で多彩な作品を撮りましたが、基本的
にはエンターテインメント映画が得意でした。フランスのヒット・メーカーとして愛されました。

この作品は1952年、カンヌ国際映画祭で「監督賞」を受賞したことでC・ジャックの実力が証明
されたと言えるでしょう。(上映時間100分)



<ゴルフ部会>

10月5日(土)に予定していた秋のゴルフ会、「稲門
例会」が延期となり、新たに12月7日(土)に、玉村ゴ
ルフ場(群馬県玉村町)において開催することが決定い
たしました。奮ってご参加ください。新規参加者歓迎
です。詳細お問い合わせ・申し込みは伊東毅

Tel=Fax 042-471-7114、

Eメール: tsuyoshi_ito@tenor.ocn.ne.jp

までご連絡下さい。

伊東 毅記

<書道部会>

書道部会は、毎月第二日曜日 13:30~16:00 に例会を行って研鑽を積んでいます。権威ある賞を受賞なさっている、超師範クラスの武藤部会長や平山正徑さん、福田稔さんのような方に直接指導していただけるのも稲門会の部会だからであり、初級者・中級者が月一回集い、厳しくも楽しい例会で上達を夢見て書を楽しんでいます。前号でもご案内済みですが、この秋は下記の書展を開催予定です。皆様のご参加、ご来場をお待ちしております。

◎東久留米稲門会書道部展 武藤豊会長 平成25年11月15日(金)~17日(日)
成美教育文化会館1F ギャラリー

◎国際書画交流会展 福田稔会長 平成26年1月12日(日)~17(金)
東京都美術館(上野)

小野泰右記

<ラグビー観戦部会>

【観戦予定試合】

11月23日(土) 早稲田 vs 慶応 秩父宮 <<観戦者募集終了>>

12月1日(日) 早稲田 vs 明治 国立 キックオフ 14:00

<<観戦申し込み締め切り 11月12日(火)>>

早明戦幾多の名勝負を繰り広げた国立競技場も、全く新しくなってオリンピック会場と成るべく来年7月には取り壊しが始まります。国立競技場で開催される早明戦も今年が最後になります。この早明戦での勝利を確実なものにすべく、母校ラグビー部では「国立をホームにしよう」

なる Project を展開、ファン、OB の来場応援を求めています。当会では、聖火台下辺りに陣取ってグループ観戦すべくチケット購入の手配をしたいと思えます。観戦希望者は藍原まで11月12日(火)までにご連絡ください。(バックスタンドB自由席@2,000円)

緊急特別寄稿

【やっぱり、でも・・・】 11月3日帝京戦観戦記

昨日は秩父宮でラグビー観戦。慶応 vs 明治の豪華前座つき。我らの早稲田は王者帝京を相手に勝利に拘った試合運びで健闘も31対40の惜敗。もしや勝ったのではと今朝コンビニでサンスポを買ってきて確認。やっぱり負け。何かお褒めのコメントは?と探してもなし。やっぱり負けてはダメ。垣永主将の「黒星でも差は縮まった」とのコメントが救い。

14:00 早稲田ボールのKO。SO小倉深いボールを蹴りこむ。今日は相手陣内での戦いを目論んでいるなどと思っているとこのボールがラインオーバーでいきなり相手ボールのセンタースクラム。これでスクラムは幾分勝っているかなとの見当はついたが、小倉君いきなりキックミスはイケマセン。(結局この日同じミス三回。ボールプレゼント) センターラインからのPGは外したものの2PG、1Tryを稼いで、3Try2Gの帝京に11対19で折り返し。後半Tryは互いに3つで同数。ゴールが1対3、しかしドロップゴールを決めたので後半だけなら20対21。

失敗もあったが、何とか相手陣内で戦おうとのマネジメントはGood。スクラムは幾分勝っていた。ラインアウトは健闘して五分五分。相手陣内からセンターライン付近でのデフェンスは相手に食い込まれたが良くタックルに入り時にターンオーバーもしてGood。(練習を重ねているダブルタックルが効いている)。問題は自陣深く入られてからのデフェンス。ダブルタックルに行っている中にリサイクルが遅れて、外側が人数不足になってしまいTryを許してしまう。ちびっ子にあれもこれも要求しても無理。自陣に入られないエアリアマネジメントが第一か。

両WTBが一つずつTryを取った。この意味は大きい。チビッコCTB(坪郷飯野共に170cm)が頑張っ て Back three にボールを繋げたことを意味する。藤田が復帰するとFBに入るだろうが、得点力Upが期待できる。

最後にファンに「喝」。相手陣深く入って、フェーズを重ねても軽量FWなかなか前に進まない。昨



日の最後の Try は随分時間が掛かった。第一試合で明治を破ってご機嫌の慶應OBが後の席で大声「早稲田勝てるぞ!!! 肉弾戦やってんに早稲田後押ししろ!!! ナーンデ俺が早稲田を応援しなきゃいけないんだよ!!!」。すみません、すみません。帝京相手に勝つのは難しい。と弱気虫が早稲田マンの心に、いつの間にか。そしてピンチ、チャンスに声も出さずジット試合を観るばかり。

70分出ていた布巻。チビッコCTBの頑張り。藤田復帰があれば!!!。やっぱり帝京の選手権5連覇阻止は早稲田だ。(対抗戦辛勝の筑波もいますが)

小声情報：藤田君、欧州遠征途中で帰国して早慶戦出場の可能性あり。(まともなら早明戦から。)

藍原昌義記

東稲広報室

<事務局より>

1. 秋の旨いもの会の収支について報告いたします。

収入	3,000円×38人=114,000円	支出	会場、備品費用	22,250円
	1,000円×8人=8,000円		寿司	27,000円
	合計 122,000円		飲物	19,644円
			料理関係	48,511円
			ゲーム代	2,233円
収支	5,362円(稲門会の収入へ)		合計	116,638円

2. 大学体育関係部への寄付について

今般スキー部へ5万円を寄付しました。5万円の内訳は、総会等の募金や忘年会や役員懇親会の残金を3万円と会からの支出2万円になります。これで校友会からの組織強化補助金20万円の要件が充足できますので年内に申請する予定です。

3. 50代、60代校友の入会案内

11月に、ポストマンを活用し50代、60代校友290名に入会案内を配布します。

4. 平成26年「新年会」について

平成26年1月26日(日)午後5時より、成美教育文化会館にて開催いたします。詳細は12月にポストマンにて配布します。

<稲門祭福引当選者> 校友会賞当選：井坂宏、東海俊孝、森田隆、村野建彦、森川紀一、梶井琢太
職域賞当選：森川紀一 (敬称略)

<お詫びと訂正>

前号で掲載しました<稲門祭 福引券抽選番号一覧表>の中で、氏名の記載ミスがありました。お詫びするとともに下記の通り訂正いたします。大変申し訳ございませんでした。(担当：小山田)

(誤) 久家正裕 ⇒ 【正】 久家政裕	(誤) 東海敏孝 ⇒ 【正】 東海俊孝
(誤) 平子俊夫 ⇒ 【正】 平子敏夫	(誤) 青柳茂彦 ⇒ 【正】 青柳成彦
(誤) 西村亨 ⇒ 【正】 西村享	(誤) 高柳康夫 ⇒ 【正】 高柳康夫

<イベント中止のお知らせ> 11月24日(日)のウォーキング(赤坂、六本木)は中止とします。

<編集後記>

東稲ニューを印刷する11月7日は立冬。立冬は、日の光が弱くなり、冬の気配が感じられてくるころのこと、だそうだが暦の上の話で、今は錦秋、秋真っ盛りですな。食欲の秋の「旨いもの会」は盛況の裡に終わり、これからは旅行部会、書道部展、ラグビー観戦と部会活動はピークとなり、来月はもうはや師も走る師走、早いものである。

旅先で学ぶ日本の歴史・台湾で知った八田與一氏の功績

菊池伸明 (S46年 教育)

東日本大震災のあと、台湾から日本へ送られた義捐金は200億円にも達しました。うち台湾政府と企業からは20億円 残り9割はみな市民からのものです。この金額は破格で、中国からの義捐金の50倍以上にあたります。台湾人は四川省地震への義捐金に比べその2倍近い金額を日本の各自治体へ贈りました。「何故ここまで日本に？」疑問は台湾へ行く前からありました。

5月に台湾へ行きました。驚くほどの親日派であるガイドの朱さんと過ごすほんの四日の間に、台湾国民の日本に対する感情は 尖閣列島領土問題で報道されているそれとは まるでかけ離れているものを感じました。各地で会う人・遭う人 皆さん好意的で、親しく言い寄ってきたのです。そこには、多くの日本人が台湾の発展に大きな貢献をしていた歴史的事実がありました。その代表となる人物が日本統治時代の台湾で、農業水利事業に大きな貢献をした八田 與一氏 (1886/2/21-1942/5/8) でした。

数多のWEBサイトで「台湾の近代化に尽くした日本人」として紹介されている氏の功績を要約すると次のようなものです。

彼は1886年、金沢市に生まれ、東大・土木工学を卒業後、24歳の時(1910年)に台湾総督府内務局土木課の技手として務めていました。当初は衛生工事を担当していましたが、28歳からは水利事業を担当、設計工事の責任者として桃園の水利事業以降は第一人者として技師として認められ、56歳で亡くなるまでほぼ全生涯を台湾に住み、台湾のために尽くしました。



八田 與一氏肖像写真と銅像

彼は、当時アジアといわれた烏山頭ダムと1万6千キロにおよぶ灌漑用水路の建設(1920年着工10年を要した大規模土木事業)にあたり、人情味のある現場責任者として農民に慕われていました。工事にあたり「烏山頭は大きな工事であり困難も伴い時間もかかる。働く人たちが安心していい仕事ができるために家族が一緒じゃないといけない。」と主張。工事が始まるや、家族を含め2千人にもなるひとつの街を創りあげ、工事関係の施設はもちろんのこと、家族も住める宿舍や共同浴場、商店や娯楽施設(テニスコートや広場)、さらに学校まで整備しました。

また三年輪作給水法を提案・導入し、水稻、甘蔗、雑穀の三年輪作栽培で、水稻は給水、甘蔗は植期だけ給水、雑穀は給水なしという形で、土地に住むすべての農民にあまねく水の恩恵を与えられるようにしました。この独創性こそが台湾の嘉南全土を救う鍵となったのです。



今も稼働しているダム

嘉南平野はサトウキビすら育たなかったといわれていました。八田氏が建設したダムと1万6千キロにおよぶ網の目のような用水路のおかげで台湾最大の穀倉地に変わっていきました。水稻の収穫は11倍に、サトウキビですら数倍に、あるいは数十倍に収穫量が増加したといわれています。嘉南平原の隅々にまで灌漑用水が行きわたるのを見とどけてから、彼は家族とともに台北に去っていきました。しかし、

八田氏は1942年、陸軍に徴用されてフィリピンに向かう途中、乗っていた船がアメリカの潜水艦に撃沈されて、帰らぬ人となりました。その三年後外代樹(とよき)夫人も入水してその生涯を台湾で終えました。没後70年以上経過した今も八田與一氏と外代樹夫人の墓は花束が絶えることはありません。

旅に出ると壮大な自然や他の国の文化に触れるだけでなく各地の歴史を学びます。2013年5月の台湾への旅は、偉大な日本人の足跡を知り多くを学びそして元気をもらえる旅となりました。

(注) 文中八田與一氏については「Wikipedia」をはじめ「I Love Asia」など複数のWEBサイトから抜粋・加筆したものです。